

東北の日なた

今よ

一、私の幼稚園は幼児の數に比較して廣い建物を有して居りましたが、天地自然の恩恵に浴せしむるを以て保育の要件と致して居りますので庭園も可成廣くあります。冬季の長い當地の事故春夏私は天候の許す限り室外保育を奨励して日光に浴せしめて居りましたが去る七月十三日創立以來三十五周年築き上げたる建物は僅に一時間有餘にして一物をも残さず烏有に歸してしました。原因は今尙不明でしたが、幸ひ無風でしたので他に類焼の迷惑をかけませんでした。處が今時局は再建は覺束ないのです國家は夫れ以上の物を要求して居ります。銃後は戦時保育所を要望して居りますが大阪には立派な家なき幼稚園(自然保育園)ありと承つて居ますが、建物はなくとも或程度迄の保育は出來得る。

今年には種々の都合上田植(室外手足洗水道の流れを利用した小田)遅れやつと苗を

探し求めて火災の前日に田植をしたのであつたが一月を経て出穂し之で完全に稔りました三十年前奉齋した皇大神の御前にて神嘗の御祭りを例年はしたのであります。

天は父であり地は母であります天地萬有は活物である證據に粟粒一つ播いても母體によりてみのもと云ふ天地のおん働きを一生の基礎をなす幼児期に知らしめん爲、又勞力奉仕、増産の一指針ともせんと畑には種々の物を幼児の出來得る範圍に手傳はしめ其成稔を樂しましむるのであります。

晴天の日にも室内に居る子供があれは「風でない限りお外で遊ぶのです」、ねずみはお日様に當ると死んで了ひます。其他植物にたとへ等して日蔭育ちの生育を観察せしむる等しますが冬日と雖も雪合戦もスキも雪舟櫓スベリも炊事もします屋上の雪の上にも登り元氣に室外保育をします、市

内には他に八つの保育園や幼稚園はありますが廣い庭園を有する向き少く或は全く無い方もあります。

日々の保育時間も午後二時迄在園するものは二、三あり他は十一時半乃至一時であります、私の幼稚園は午後二時迄でありましたがつとめて日光をあびると共に眞夏も夏知らずと云ふ白紫の大木の藤棚幾十坪とありますので日光と陰とを緩和して自然の恵を受けて倦くを知らずに居りましたが此の藤棚は火災を逃れました。

されば建物を失ひし幼稚園は第二少國民健康増進の爲其筋の許可を得て何處彼處の幼稚園の區別なく低學年の兒童退下後又は曬祭日の休日には此所にて日々の生活をなすと同時に將來大國民としての態度に戻らざるの教養をも施し度市内には空閑地として殆んどなくこゝを小公園として利用したいと思つてゐます。

幼少の時より日光を好むやう又其恩恵を辨まへしむるやう保育することは最大切なることで弱い子無精の子は日光を避くるの傾向あり(大人もさうであるが)「朝起きる家は朝日が差込んで貧乏神の居處もなし」朝

寢する家は朝日が取り巻いて貧乏神の所出もなし」とは秋田縣の岩川理喜之助翁の道歌と承る。世の中には日の出を見たことが無い人があり朝寢をしても夜遅く眠れば睡眠時間に違ひは無いと之れは西洋風の人。尤も程度による問題であるが弱い人も徐々に朝起きをなして丈夫になる人は多い。これは東洋からの古風と思ふ、春陽がカ／＼か

日なたの畑

耕地 去年の秋、幼稚園に隣接した空地を百坪あまりいただいた。垣根なしの空地の間が数年もつゞいてゐたので、場末の空地そのまゝで、塵埃の捨てどころになり、石炭ガラ、瀬戸物のカケラ、石、瓦のカケなどといった耕作に出来る土地になることかと考へた。

それでも強い雑草はその荒地土の層から生ひ茂つて幼児たちの背丈以上にものびてゐた。この荒地開墾の仕事は私共素人には

げらふにほひ日傘をさして歩く人をあやぶむ又幼稚園の中にも庭園に重きを置かて建物さへあれば保育出来るものと心得て居らるゝ向きもあるやうに見受る而して其建物の内にも光線は餘り入らぬやうでは全く子供のもやしが出来まいかと憂ふるのであります。(筆者は青森幼稚園主任)

及川ふみ

手の下しやうもないので先づ第一に園藝の大岩先生の御指導を仰ぐ事にした。

第一雑草取り、第二石、カケラ、石炭ガラなどを取りのぞく事。

この二つの最初の仕事を教つた。

十月八日大詔奉戴日に全園幼児たち、雑草取りをする事にした。一組三十分位交代で仕事を始めると幼児たちはこの頃の幼児だけに、勤勞奉仕だと喜んで雑草取りをする。強い雑草だけに根が堅くてなか／＼安

安とは取れない。頭の前だけチョンギルの澤山にあるがとにかく幼児達は喜んで働いてくれる。それに空地一面に、一日中日が當つて一日畑にゐただけで日やけする位であつた。半ば枯れた雑草取りを数日つけて焼いた。根が深い雑草は鋏で掘つて掘つてなか／＼掘り出されないで保育科の生徒も我々保母もなか／＼の雑事であつた。やうやく雑草の仕末がついて今度は石ころ、瓦カケ、瀬戸カケの始末である。

又幼児たちの勤勞奉仕が始められた。空箱、塵取り、植木鉢とてんでんに入れ物をもつて來たり或は兩手にもてるだけの石ころは石ころ搬びに又數日働いてくれた。力は弱くて一人の一回の搬ぶ量はほんどにささやかなものであるが全幼児の延人数百八十人の數日の働きは目立つて片づいた。

六坪ばかり限られた場所を深さ三尺ばかり保育科の生徒により掘り下げられた。この穴に石カケその他の雑物は皆埋められてやうやく耕地として第一段階に入つたやうになつた。次の仕事は校内の數回隔つたところの土を運搬する事であつた。十人たら